

みんなで作ろう暮らしやすい豊かな社会

ECOMO

No. 75
SPRING
2023



P.2~3 特集 スローモビリティ社会を目指して

P.4~5 シリーズ 「だれでも行ける魅惑の船旅!」～水上バス編～

P.6~10 活動案内 バリアフリー推進部/交通環境対策部/グリーン経営業務室

P.11 コラム 空港保安検査について

特集

スローモビリティ社会を目指して

当財団では、2023年3月3日にスローモビリティ社会研究グループを立ち上げました。このグループは、公共交通が脆弱な地域における生活の足や観光地等での移動手段として、歩行者やクルマとも共存できるスローモビリティの普及や低速の交通まちづくりに向けた調査研究を行います。

車両貸与（鳥羽市・答志島）



SLOW MOBILITY

これまで当財団では、時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスである「グリーンスローモビリティ」の普及に努めてきました。具体的には、国内外の事例調査から、社会実験のための車両の貸与、研修会やシンポジウムの開催等を実施してきました。

これからは、2022年度まで取り組んできた「グリーンスローモビリティ」の普及を継続しつつ、新たに「モビリティスクーター」の普及に向けて検討するとともに、「低速の交通まちづくり」について調査研究を行い、その取組成果等を「スローモビリティシンポジウム」で報告していく予定です。



スローモビリティシンポジウム

2 023年度より検討を開始した「モビリティスクーター」を紹介します。「モビリティスクーター」は、電動で低速なパーソナルモビリティで、欧州をはじめとする諸外国において、高齢者などの自立した移動や生活を支援する乗り物として普及が進んでいます。

現在、日本国内においては、「モビリティスクーター」に関して明確な定義はありませんが、進行する高齢社会や地域公共交通が衰退する状況下において、高齢者等が安全で円滑に移動できる社会の実現に向けた解決策の一つと考えられます。

2023年5月15日に、国土交通省において、当財団が国内でナンバープレートを取得したHeartway社製の車両等を対象とした「モビリティスクーター」の展示および試走会を開催しました。当日は、国土交通省の関係各局をはじめ、警察庁、環境省、有識者の皆さまにも参加いただきました。試走会の冒頭、国土交通省幹部にもご試乗いただきました。

台湾から輸入した当財団の車両以外に、トヨタ自動車にご協力いただき、立ち乗りのパーソナルモビリティとして「C+walk T」にもご試乗いただきました。また、アクセス社製の高齢者向け電動低速スクーターも展示しました。

今後はこの「モビリティスクーター」の普及に向けて、試走会や実証を通じて、公道での走行実績を積み重ねていく予定です。

S23 DATA

	メーカー	Heartway社/台湾
	最高速度	15km/h ※Lowモード 7km/h
	航続距離	45km
	定格出力	500W
	バッテリー	鉛電池/リチウムイオン電池
	サイズ	長さ1,370mm×幅660mm×高さ1,350mm
	最大乗車重量	160kg
	本体重量	117kg

Heartway社製品ホームページより



Heartway社製 S23



トヨタ自動車 C+walk T



モビリティスクーターの操作説明



握りやすいハンドルと分かりやすい操作盤



トヨタ自動車 C+walk Tとアクセス社製 SILD



取り付けられたナンバープレート、シートが回転するため乗降がしやすい

だれでも行ける
魅惑の船旅!

～水上バス編～

取材・文／小林 希
旅作家、(一社)日本旅客船協会 船旅アンバサダー

架橋をくぐり、横浜駅東口乗り場へ戻ってきた「SEA BASS ZERO」(総トン数45トン)。

港町を支える水上バス、新しい時代のエースに

“港町”というと、ワクワクする。水平線の先へと旅立つ出港の地で、外海から多くの人や文物が出入りする交流の地だ。かつて、港はその町の玄関口として発展してきた。中でも横浜は、港から発展した大都会だ。国際客船ターミナルがあり、巨大な豪華クルーズ客船が停泊している。

一方で、さまざまな船も多く往来している。船のある港風景こそ横浜らしさであり、主要な観光スポットも港に凝縮されている。観光には、徒歩や路線バス、電車を利用して移動するのも良いが、横浜では船上から港の景色を眺めながら移動できる水上バス(シーバス)の利用が人気だ。

海や河川、湖に恵まれた日本では、その場所やニーズに適した船が数多く存在する。たとえば、これまでにご紹介した離島を支えるフェリーのほか、乗船そのものを楽しむ観光船や遊覧船、そして海上交通船の水上バスなどがある。

今回は、横浜で水上バスを運航するポートサービスの新造船「SEA BASS ZERO」と「SEA BASS ACE」をご紹介したい。ポートサービスは、横浜駅東口、ハンマーヘッド、赤レンガ倉庫、山下公園に寄港する航路を運航する船会社だ。

水上バスは、英語で「Water Bus」や「Water Taxi」と呼ばれるが、ポートサービスでは「SEA BUS」ではなく「SEA BASS」と表記する。これは、横浜駅東口の淡水域(河口)と海域を行き来していることから、同様の生態をみせる魚のシーバス

(スズキ)に重ねているという。

2020年に就航した「SEA BASS ZERO」は、2019年の台風15号の被害により廃船となった「SEA BASS 3号」に替わって新造された。コンセプトは、“原点に戻る”。2021年に就航した「SEA BASS ACE」は、“ニュー・ジェネレーション(新世代)”をテーマに位置づけ、「時代のエース」や「港のエース」をコンセプトに名付けられた。

両船とも、喫水を浅く、船体を低くして水深の浅い運河にも対応している。客室部は水面とほぼ同じ目線になるため、水上をすべるように移動する感覚を肌で体験できる。ガラス窓は壁から天上にかけてL字型に大きく設けられ、どの席からも横浜の景色がよく見渡せるので、乗船自体が観光コンテンツとなってクルージングを楽しめる。

さらに進化したのは、バリアフリー設備だ。船体が小型なので、場所を最小限に活かした工夫が特徴だ。栈橋から乗下船する際は、「段差解消装置」が設置さ

れているので、高齢者や身体に障害のある人でも安心して乗船できるようになった。また、2018年より開発された設備には、自動回転扉の「簡易型バリアフリートイレ」があり、国内の船舶で初めて「SEA BASS ZERO」に設置された。

ほかにも、大型の運行情報モニターを設置して、横浜の観光案内を多言語で表示している。高齢者や身体に障害のある人だけでなく、外国人にも対応できる仕様になっており、従来よりも優しい船になったといえる。

私も天気の良い日に乗船した。大きなガラス窓から陽光が差し、一気に非日常に誘われた。窓はびかびかで、毎日船長が愛情を込めて掃除しているのだという。横浜に必要な船。海上交通として港町を支えてきた歴史の延長に、今後は観光においても横浜を引っ張っていこう。まさしく、ゼロ(原点)を忘れず、新時代のエースになる船だと感じた。



2021年秋に就航した「SEA BASS ACE」は総トン数19トンで、これまで最も小型。観光に重きを置いたクルーズ船としての利用が期待され、イルミネーションクルーズや「Kawasaki 超工場夜景クルーズ」などはすでに人気を呼んでいる。

新造船SEA BASS ZERO



黒と白を基調としたモダンな船内には、大きな窓がL字型に設置され、非常に明るい雰囲気。船体には間接照明として発光ダイオード(LED)が埋め込まれており、夜になるとムーディーな雰囲気になる。



助成
対象設備

2018年にエコモ財団が自主事業により「小型旅客船のバリアフリー化と標準化モデルの検討」を実施し、簡易型バリアフリートイレを開発。小型船舶内でもすっきりと収まり、乗船者からも好評。

新造船SEA BASS ACE



助成
対象設備

19トンという小型の船内に設置された段差解消装置。場所を取らずにだれもが安心して乗船できるようになり、高齢者や身体に障害のある人の利用も増えている。



助成
対象設備



高齢者や身体に障害のある人等にも安心して乗船してもらえるように優先席が設けられている。窓ガラスが大きいので、どの席からも景色がよく見える。



エコモ財団では、日本財団からの支援を受けて、海上交通におけるバリアフリー化を推進するため、旅客船並びに旅客船ターミナルのバリアフリー施設・設備の整備に対して助成を行っています。今回、取材した「SEA BASS ZERO」と「SEA BASS ACE」のバリアフリー設備は、この助成制度を活用して整備されています。

活動案内 バリアフリー推進部

活動

01

障害当事者講師から学ぶ！交通サポートマネージャー研修を開催します

交通事業者職員向けのバリアフリー研修「交通サポートマネージャー研修」を開催します。本年度は東京地区3回、関西地区2回の研修を実施します。

本研修は障害当事者が講師となり、公共交通機関利用時の課題や利用しやすくするための対応の好事例などを講義します。また、グループディスカッションでは、対応が難しい事例について講師とともに望ましい対応を検討します。座学、介助実技、ディスカッションを通じて、障害当事者の生の声を聞き、具体的なコミュニケーションの取り方を習得するとともに、バリアフリーに関する最新の知見も得られます。



障害当事者が加わったグループディスカッション



視覚障害者の誘導実技の様子

研修の詳細は随時ウェブサイトでご案内しますので、お早めにお申し込みください。

URL

<https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/best/index.html>



「交通サポートマネージャー研修」の情報はこちらから

活動

02

2023年度ECOMO交通バリアフリー研究・活動助成事業が決定しました

25件応募を頂き、審査委員会で選定した結果、7件（若手研究者部門1件、一般部門3件、研究・活動部門3件）が2023年度事業として決定しました。

若手研究者部門

- ▶ 乳幼児連れの機能分散トイレ利用を促す案内誘導サインと設備に関する研究

奈良女子大学大学院 重久 絢音氏

一般部門

- ▶ 発達障害や認知症者などの外からは見えにくい障害がある人が安心して航空機を利用できるようにする為の環境の整備に関わる調査 一新千歳空港をフィールドに「気持ちを落ち着かせる為の場所」の実証実験を通して

中央大学研究開発機構 丹羽 菜生氏

- ▶ 駅ホームにおける視覚障害者の行動に影響する個人要因の研究

公益財団法人鉄道総合技術研究所 大野 央人氏

- ▶ ナビゲーションタグの実用化ならびに標準化に向けた検討と課題の整理

特定非営利活動法人アイ・コラボレーション神戸 北山 朋子氏

研究・活動部門

- ▶ 障害者や高齢者の移動のラストワンマイル（徒歩圏）をICTで支援をするためのスマホ教室の開催

地縁-中央 江口 裕子氏

- ▶ 視覚障害者の踏切利用の安全性向上のための研究

日本歩行訓練士会 特定非営利活動法人六星 古橋 友則氏

- ▶ 視覚障害者が安心安全に信号横断できる社会づくり

視覚障害者信号機横断プロジェクト 谷田 妙子氏

「カームダウン・クールダウン」の冊子を作成しました

2018年に作成した標準案内用図記号「カームダウン・クールダウン」について、より多くの方々にご理解いただくために解説ページを作成し、公開してまいりました。2022年度、このページを元に、今後「カームダウン・クールダウン」の導入を検討されている事業者の皆さまにご

参考いただけるよう、設置事例を視察し、事業者の皆さまにヒアリングした結果を冊子にまとめました。

ご協力いただきました事業者、関係者の皆さまに感謝申し上げますと共に、設置を検討されている皆さまにご覧いただけますと幸いです。



カームダウン・クールダウン

URL

[https://www.ecomo.or.jp/
barrierfree/pictogram/
picto_top2021.html](https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/pictogram/picto_top2021.html)



「標準案内用図記号」の情報はこちらから

「ひまわり支援マーク(ストラップ)」のトライアルを実施しました

「ひまわり」のストラップをご覧になったことはありませんか？

発達障害、知的障害、認知症など目に見えにくい障害のある方々が「自分の障害を公表すること」、「必要な時にサポートや支援を受けること」、「少しの余裕ある時間を得ることで、自信を持ち自立した行動ができるようになること」を目的に、2016年にガトウィック空港(英国)で「Hidden Disabilities Sunflower」として作成されました。現在は、その取り組みが広がり、世界24ヶ国179空港で採用されており、英国においては、鉄道、銀行、スーパーマーケットなど日常生活に関わる範囲に取り組みが広がっています。

日本においても、2022年4月～2023年3月まで国内5空港(新千歳、羽田、成田、福岡、那覇)、1ターミナル(さんふらわあ大阪)においてトライアルを実施し、その有用性について検証を進めました。

期間中は口コミ等で広がり、全体で約500個のストラップが配布され、事業者からは「海外でも共通して使用できるので良い」、当事者からは「利用できると良い」

というご意見を頂きました。まだ認知度の低さが課題となっているものの設置を望む声は大きく、2023年度も引き続きトライアルを継続しつつ、実施する場所を増やしながら、今後各事業者自身で継続していく方針を検証して参ります。



ひまわり支援マーク(ストラップ)

活動案内 交通環境対策部



活動

01

EST交通環境大賞の受賞団体を発表しました

当財団およびEST普及推進委員会は、「第13回EST交通環境大賞」の各賞を決定しました。

EST交通環境大賞は、わが国におけるESTのさらなる普及のために、地域の交通環境対策に関する取組事例を発掘し、優れた取り組みの功績や努力を表彰するとともに、その取り組みを広く紹介し、普及を図るために、2009年度に創設したものです。

今回は、応募のあった16件の中から、EST普及推進委員会（委員長：加藤博和/名古屋大学教授）における審査を経て、大賞2件、優秀賞1件、奨励賞3件を、それぞれ以下のとおり決定しました。

賞	受賞団体名	主な取り組みの名称
大賞	【国土交通大臣賞】 T-PLAN株式会社、一般社団法人姫島エコツーリズム（大分県東国東郡姫島村）	離島の課題に再エネと小型EVを活用した取り組み
大賞	【環境大臣賞】 鹿追町（北海道河東郡鹿追町）	「家畜ふん尿由来水素」を核としたESTモデル事業
優秀賞	世界遺産石見銀山大森地区におけるGSMを中心とした地域内交通整備事業コンソーシアム（島根県大田市）	世界遺産石見銀山大森地区におけるグリーンスローモビリティ（GSM）「ぎんざんカート」の運行
奨励賞	奥入瀬渓流利用適正化協議会、奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会（青森県十和田市）	奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト
奨励賞	城崎温泉交通環境改善協議会（兵庫県豊岡市城崎町）	地域一体となった「そぞろ歩きルール」の実施
奨励賞	和歌山県（和歌山県全域）	WAKAYAMA8∞～サイクリングを活用した、持続可能な観光地づくり～



T-PLAN株式会社
一般社団法人姫島エコツーリズム
姫島の海岸線を走るグリーンスローモビリティ



鹿追町
水素ステーションと水素燃料電池自動車



世界遺産石見銀山大森地区におけるGSMを中心とした地域内交通整備事業コンソーシアム
まちなみを走るカート



奥入瀬渓流利用適正化協議会、奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会
奥入瀬渓流へのアクセスはシャトルバスに乗って



城崎温泉交通環境改善協議会
歩行空間拡大社会実験



和歌山県
サイクリストに優しい宿

受賞団体の取組内容や授賞理由は、ESTポータルサイトの以下のページに掲載しています。



https://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2022_02.html

表彰式は、7月18日（火）13:30より東京都千代田区のルポール麹町「ロイヤルクリスタル」において開催される「第13回 EST普及推進フォーラム～地域一体となって取り組む交通のカーボンニュートラル～」の中で行います。受賞団体による講演等も予定しています。



<https://www.estfukyu.jp/forum15.html>

活動

02

運輸・交通と環境2023年版を発行しました

本書は、環境問題に関心のある人や、実践的な活動に携わっている人たちに活用していただくことを願い、運輸・交通分野における環境問題（地球温暖化、排出ガス、廃棄物・リサイクル、騒音、海洋汚染等）の現状とその対策について、包括的に情報を提供するものです。当財団や自治体、市民団体、企業等の取り組みも紹介しています。

入手希望の方は当財団ホームページにて申込方法をご確認ください。



当財団ホームページ

<https://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>



2022年度スローモビリティシンポジウムを開催しました

当財団では、2023年2月13日(月)、スクワール麹町において、離島地域におけるグリーンスローモビリティのさらなる普及促進やスローモビリティの普及啓発に向け、「2022年度スローモビリティシンポジウム～グリーンスローモビリティの普及に向けて～」を開催しました。

当日はオンライン配信も同時に行い、全国の官公庁関係者をはじめ、大学関係者や交通事業者、シンクタンク・コンサルタントなど、会場・オンラインを合わせて、270名の方々にご参加いただきました。また、会場では、グリーンスローモビリティに関するパネル展示やモビリティスクーターの納車式を行いました。

プログラム概要

来賓挨拶	国土交通省 大臣官房審議官(公共交通・物流対策) 木村典央 氏
基調講演	「グリーンスローモビリティの普及に向けて」 東京大学名誉教授／一般財団法人日本自動車研究所 代表理事 鎌田実 氏
特別講演	「新モビリティがたぐ次世代型のまちづくり」 宮崎市企画財政部都市戦略局都市戦略課公民連携推進室 主査 日高和也 氏
パネルディスカッション	「離島におけるグリーンスローモビリティの普及に向けて」 《パネリスト》 鎌田実氏(東京大学名誉教授／一般財団法人日本自動車研究所 代表理事) 木下翔平氏(鳥羽市企画財政課企画経営室)※2022年度実証離島 寺下満氏(一般社団法人姫島エコツーリズム 代表理事) 小島愛之助氏(公益財団法人日本離島センター 専務理事) 古谷俊英氏(国土交通省総合政策局モビリティサービス推進課 課長補佐)



パネルディスカッションの様子



納車されたモビリティスクーター

エコ通勤優良事業所認証の制度説明パンフレットを改訂しました



「エコ通勤優良事業所認証制度」(事務局：国土交通省総合政策局地域交通課および当財団)は、エコ通勤に関する意識が高く、エコ通勤に関する取り組みを自主的かつ積極的に推進している事業所、自治体を優良事業所として認証し、登録するとともに、その取組事例を広く国民に周知することにより、エコ通勤の普及促進を図ることを目的として2009年に

創設されたものです。2023年3月31日現在、399件829拠点の企業・自治体等が認証されています。

このたび、制度説明パンフレット「エコ通勤優良事業所の認証を取得しませんか? エコ通勤優良事業所認証制度のご案内」を大幅に改訂しました。本認証制度や、申請書に記入する認証要件、取り組みを証明する添付書類を視覚的に示し、一目で分かりやすくしました。

同時期に申請様式等も改定し、制度説明パンフレットで新たに導入した認証要件①～④のマークを新様式にも配置することで、様式を見るだけでも認証要件が分かるようにしました。制度説明パンフレットとセットで見ていただくことで、申請書類を作成する際の煩雑性が軽減しますので、是非ご覧ください。

詳細は「エコ通勤優良事業所認証制度」
ウェブサイトをご覧ください



https://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html



活動案内 グリーン経営業務室

活動

01

運輸事業におけるグリーン経営認証制度を実施しています

グリーン経営とは、環境マネジメントシステムの一つであり、企業の社会的責任として、環境問題にも積極的に取り組むためのツールです。

国土交通省は、この認証制度を運輸部門における実効性のある環境対策として評価し、国の施策(国土交通省「環境行動計画(2021改定)」)の取り組みの一つとして取り上げています。

グリーン経営認証取得による効果－2021年版－を公表

2006年度よりグリーン経営認証取得による具体的効果を検討し、公表してきましたが、2021年版のとりまとめ結果を2023年4月に公表しました。

その結果各図のとおり、トラック、バス、タクシーでは取得2年後に1.6～3.2%燃費が向上し、倉庫、港湾運送、旅客船、内航海運では取得2年後に1.3～5.9%CO₂排出原単位が改善されていることが分かりました。

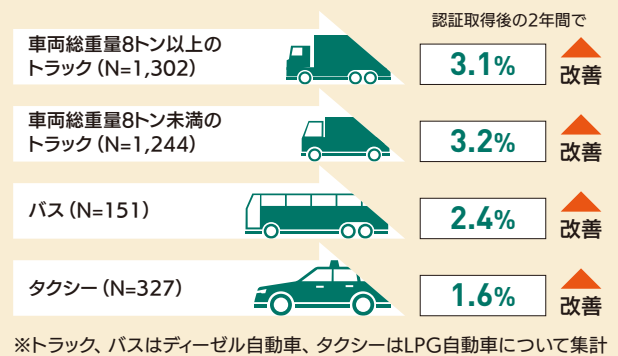
さらに、認証取得後1年目の走行距離あたりの交通事故件数は、前年比でトラック25.9%、バス20.4%、タクシー7.0%減少し、また、走行距離あたりの車両故障件数は、前年比でトラック20.9%、バス3.9%、タクシー15.9%減少しました。

グリーン経営認証制度の概要



認証機関	当財団
対象業種	トラック、バス、タクシー、倉庫、港湾運送、旅客船、内航海運の7業種
登録開始年月	2003年10月 <トラック運送事業> 2004年 4月 <バス事業、タクシー事業> 2005年 7月 <倉庫業、港湾運送事業、旅客船事業、内航海運業>

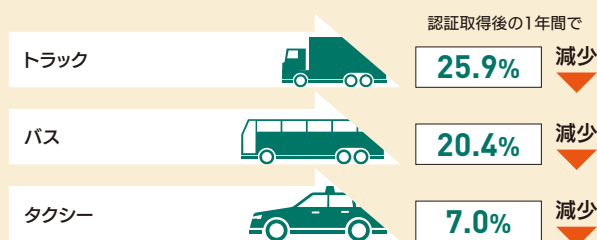
平均燃費 認証前後2年間の比較 <トラック、バス、タクシー>



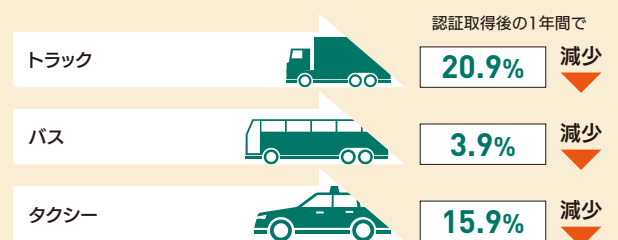
CO₂排出原単位 認証前後2年間の比較 <倉庫、港湾運送、旅客船、内航海運>



交通事故件数 認証前後1年間の比較 <トラック、バス、タクシー>



車両故障件数 認証前後1年間の比較 <トラック、バス、タクシー>



なお、集計データの詳細やその他の副次的効果などは、

グリーン経営専用ホームページ

<https://www.green-m.jp/>

掲載資料をご参照ください。



空港保安検査について

多くの外国人が訪れ、観光立国となりつつある日本。空の旅を守るために、空港では航空機に搭乗する際に必ず受ける保安検査があります。ゲート型金属探知機およびX線検査機を使い航空機内への不審な物品など危険を生じさせる恐れのあるものの持ち込みを防ぐ重要な検査です。

国土交通省航空局では「テロに強い空港」を目指し、

全国の空港において従来型の検査機器からボディスキャナー（現行の接触検査に代わるものとして、自動的に非接触で人体表面の異物を検知する装置）、高性能X線検査装置（機内持込・預入手荷物のX線検査機器のうち、爆発物を自動的に探知するシステム）等の高度な保安検査機器（爆発物検査機器等）への入れ替えを進めています。

高度な保安検査機器

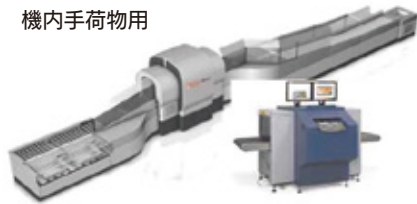
ボディスキャナー



現行の接触検査に代わるものとして、自動的に非接触で人体表面の異物を検知する装置

高性能X線検査装置

機内手荷物用



機内持込・預入手荷物のX線検査機器のうち、爆発物を自動的に検知するシステム



預入手荷物用

ETD（蒸散痕跡物等利用爆発物検査装置）



液体爆発物検査装置



出典：https://www.mlit.go.jp/page/content/001498751.pdf

取扱処理能力1.5倍を目標とした成田国際空港のサイン計画

多くの訪日客の受け口となる成田国際空港では、2016年よりお客さまの待ち時間を減らす「ファストトラベル」の取り組みが推進されています。空港保安検査においては「スマートレーン」と呼ばれる新たな設備が導入されました。

スループット（取扱処理能力）1.5倍の達成を目標とした新型のレーンですが、導入後、お客さまが新しい設備の利用方法が分からず滞留してしまう、という課題が浮上しました。

そこで、さまざまな文化圏のお客さまでも理解しやすいピクトグラムを用いた誘導サインの制作を計画。サインは直感的に分かるよう、各文化圏の方々も交えて繰り返しピクトグラムのデザインを検証し採用しました。誘導サイン設置後はお客さまの滞留がなくなったことでスループットの改善と同時に、対応するスタッフの負担も軽減されています。

協力：成田国際空港株式会社



スマートレーン



誘導サインのピクトグラム



適切なサイン設置



海上交通バリアフリー施設整備助成の募集を開始します

当財団では、日本財団からの支援を受けて、海上交通におけるバリアフリー化の推進と旅客船を利用する高齢者・障害者等の移動円滑化のため、旅客船および旅客船ターミナルのバリアフリー化施設整備に対して助成を行います。

募集期間は、6月1日～7月31日まで。

主な助成対象施設は、エレベーター、バリアフリースイレ、バリアフリー客席、バリアフリータラップなど。

詳細については、下記URLのホームページでご確認ください。



バリアフリースイレ (宮古うみねこ丸)



海上交通バリアフリー施設整備助成制度

<https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/barifuri-ship/index.html>

INFORMATION / 01

エコドライブ活動コンクールの募集のご案内

当財団では、2023年度も「エコドライブ活動コンクール」の参加者を募集中です。優れた取り組みを行っている事業者を表彰し、その取組内容を紹介することによりエコドライブのさらなる普及や運輸事業部門の脱炭素化を目指しています。最も優れた取り組みの事業者には、国土交通大臣賞（事業部門）、環境大臣賞（一般部門）が授与される予定です。

2023年度は、事業部門（主に緑ナンバー）、一般部門（主に白ナンバー）、支援ビジネス・ユニーク部門（エコドライブ支援の製品・サービス、脱炭素に向けた取り組みなど）の3部門にて行います。

詳細・申し込みは、同コンクール公式ホームページに最新の情報を掲載しています。なお、2022年度のエコドライブ活動コンクール優秀取組事例集も同ホームページに掲載しています。



【応募期間】2023年5月9日（火）～7月7日（金）

【表彰】国土交通大臣賞（事業部門）1件

環境大臣賞（一般部門）1件

審査委員長特別賞（支援ビジネス・ユニーク部門）数件

これ以外にも、優秀賞、優良賞が授与される予定です。



2023年度エコドライブ活動コンクール公式ホームページ

<https://www.ecodrive-activity-concours.jp/>

INFORMATION / 02

